

令和5年11月20日

血液事業部会安全技術調査会

性的接触及び海外地域別の滞在期間の間診について

性的接触及び海外地域別の滞在期間の間診について、令和4～6年度厚生労働科学研究班「安全な血液製剤の安定供給に資する適切な採血事業体制の構築のための研究」（代表 大隈和 関西医科大学 医学部 微生物学講座 教授）において、諸外国の動向や科学的知見の整理等を行っているところ。

今後の検討に際し、以下の論点について、ご意見をいただきたい。

1 性的接触に関する間診について

(1) 現状等

男性同士の性交渉による後天性免疫不全ウイルス（HIV）の感染リスクを踏まえ、不特定の異性または新たな異性との性的接触歴や、男性同士の性的接触歴のある方（MSM; Men who have Sex with Men）等からの献血を制限しているところ。

諸外国では、特定の男性同性間の性的接触歴のある方等の献血を受け入れる動きがある。

現在の日本赤十字社の間診では、男性同性間の性的接触の有無を複数問診項目の中で確認しているが、特定の男性同性間の性的接触者における事前確率は相対的に低く、不特定の男性同性間での性的接触を有する男性と性的接触がある女性における事前確率は高いことを評価できていない。また、男性同性間の性的接触を HIV 感染に関連付けることへの批判がある。

(2) 論点

・性的接触歴に関する問診の見直しを行う場合に、事前確率が上がらないことのほか、倫理的・運用的に留意すべき点は何か。

・日本における性的接触歴の間診についてどのように考えるか。（現在の性的接触に関する問診は、複数問診項目のどれを選んだか分からない形になっており、詳細を確認するためのものとなっていない。）

（参考）日本赤十字社における性的接触に関する問診（※以下のいずれかに該当する場合は献血を制限）

6 か月以内に次のいずれかに該当することがありましたか。

- ①不特定の異性または新たな異性との性的接触があった。
 - ②男性どうしの性的接触があった。
 - ③麻薬・覚せい剤を使用した。
 - ④エイズ検査（HIV検査）が陽性だった（6 か月以前も含む）。
 - ⑤上記①～④に該当する人と性的接触をもった
-

2 海外地域別の滞在期間の間診について

(1) 現状等

変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (vCJD) は、牛海綿状脳症 (BSE) に感染した牛や vCJD に感染された方から感染すると考えられており、輸血による感染と考えられる事例も認められており、日本では、2000 (平成 12) 年から、海外地域別の滞在期間に基づき、献血を制限※しているところ。

vCJD の診断用血液検査は未だ無いが、国内での vCJD の発生は英国滞在歴のある 1 件であり、時間経過等に伴い vCJD の発生リスクが低下するなか、国内外で BSE 対策の見直しが行われ、諸外国では献血制限の見直しが行われている。

※採血時の欧州等滞在歴による献血制限の見直しについて (平成 21 年 12 月 11 日付け薬食発 1211 第 6 号厚生労働省医薬食品局長通知) により、BSE の原因となる肉骨粉が英国で使用された時期 (1980 (昭和 55) 年から 1996 (平成 8) 年) や vCJD の発生状況を踏まえ、現在は英国ほか 38 カ国の滞在者について、滞在時期等に応じた献血制限を実施。

(2) 論点

- ・血液を介した vCJD のリスク評価に際し、留意すべき点は何か。(BSE の対策の状況、vCJD の発生状況他)

- ・日本での vCJD のリスク評価は長年行われておらず、国内での vCJD の発生は英国滞在歴のある 1 件のみであることから、まず米国とオーストラリアで用いられた数理モデルを研究することとしてはどうか。